

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.64 (2021.7.27)

令和3年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
生産性の向上で働き方改革の実現
～和賀組さんで良かったといわれよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

中国の故事にちなんで「人間万事塞翁が馬」という言葉を皆さんも聞いたことがあると思います。読み方は「にんげんばんじさいおうがうま」あるいは「じんかんばんじ・・・」とも読むようです。これは中国語では人はひとの意味となりますが、人間となると世間とか世の中という意味になるため、「じんかん」と読むのが適切なのだとネットにありました。あらずじは以下の通りです。

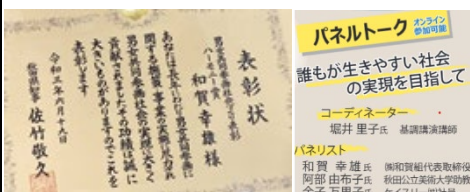
塞翁という老人が飼っていた馬が国境を越えて逃げ出してしまいました。周りの人たちは気の毒がってその老人を慰めましたが、老人は「かえて良い事が起きるかも知れない」と言いました。すると後日逃げ出した馬が他の馬を沢山連れて帰ってきました。周りの人は喜びましたが、老人は「災いが起きるかも知れない」と言ったのです。すると老人の息子が馬から落ちて怪我をしてしまいました。老人は周りのお見舞いの言葉に対して「幸運が訪れるかも知れない」と言ったのです。すると戦争が起き、怪我をしていたおかげで息子は戦地に行かずに済みました。結局人生は何が起こるかわからないので、一喜一憂せずあるがままを受け入れることが大事だと教えてくれます。

毎年ゴールデンウィークに倫理研究所が実施している「中国クブチ沙漠緑化青年隊」のツアーで、数十年前に実際に有ったまさに「塞翁が馬」だと思えるエピソードを聞きました。中部名古屋地区在住の青年が成田空港での待ち合わせ時間に現れず、電話したところ間違えて羽田空港にいたことが判明、間に合わないで帰宅するように説得したもののどうしても行きたいということで、添乗員が航空会社と交渉して深夜便に振り替えてもらい半日遅れて北京で合流することになりました。おそらく両親や先生・友達・親戚などに盛大に見送られた手前、どうしても戻りたくなかったので必死にお願いしたのでしょう。他のメンバーは無事に北京空港に到着したのですが、今度はある若者のスーツケースが他の空港に送られてしまい、荷物無しでそのまま夜行列車に乗ることになってしまいました。さらには食事が合わず体調を崩した女子学生が、どうしても夜行列車には乗りたくないと言い出したのです。すると添乗員は「わかった、あなたはホテルに泊まって薬を飲んで体調を整えて、明日朝遅れて来る名古屋の青年と飛行機で来なさい」と、青年が乗る飛行機に予約を追加してくれたのです。トラブル続きの旅行の中、航空会社から添乗員に電話がありました。それは誤送されたスーツケースが見つかり明日北京の空港に届くというものでした。ラッキーなことに翌日には名古屋の青年と病気になった女性がクブチ砂漠に向けて北京空港から飛行機に乗ることになっており、スーツケースはその二人が無事に本人に届けてくれたのです。もちろん添乗員の方の機転の良さが全てだったと言えますが、結局目的地に着いてみると人も荷物も予定通りに到着していたということになります。

私達が日常仕事や生活をしている中で、もっと大きく言うと人生を歩んでいく中で様々なトラブルやアクシデントに遭遇します。大事な事は備えを完全にして最善の対応をすることで、何が幸福で何が不幸かは直ぐに決まるものではなく、後に振り替えると「それで良かった」と思えることが多いのだと思います。

ハーモニーフェスタ

6/19 秋田市アトリオンで開催されたハーモニーフェスタ 2021 で秋田県から表彰状を頂き、パネリストとして発言させて頂きました。



秋田商工会議所講演

7/20 メトロポリタン秋田で開催されたセミナーで地盤事業部でのITへの取組等を紹介させて頂きました。21日秋田魁新報の記事です。



ワクチン接種

7/21 私も1回目の接種。翌日筋肉痛の様な症状がありましたが、翌日には消えました。若い人の感染が心配です。

